ぽかぽか

やってみよう！
～自分から みんなで～
志方東小学校
道徳だより　第２号
R8.10.22 発行

人権参観日（１０月１日）のとりくみから

１校時は１年～4 年生、２校時は５・６年生が参観授業を行いました。平日にもかかわらず、たくさんの保護者様、そして学校運営委員様や民生委員様にお越しいただきありがとうございました。
全学年、「道徳」や「ほほえみ（県人権教育資料）」教材を中心に、学年に応じて人権課題の解決に向けた授業に取り組みました。なかには保護者参加型の授業もありました。ご協力いただきましたことに感謝申しあげます。全クラスの授業の様子や子どもたちの振り返りをご紹介します。
また、その翌週の高学年「平和学習出前講座」の子どもたちの感想等についてもお伝えします。

１年生　「はしのうえのおおかみ」　親切・思いやり



くまに親切にされたおおかみの変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときのほうがずっと気持ちがいいことに気づき，身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

途中には役割演技を通して、うさぎやおおかみの気持ちになってセリフのやり取りを行い、親切にする側とされる側の心の温かさを体感しました。

児童のふりかえり

- おおかみは、うさぎをとおらせてあげたのがいいなとおもいました。
- おおかみがくまにであって、くまのやさしいところをみて、うさぎにもおなじようにやさしくしているところがいいとおもいました。
- だれかにあったら、くまのようにやさしくしてあげたいです。
- これからはやさしくしたい。（寸劇のときに）みんな、おおかみがやさしくしているところをしっかりかんがえられていて、いいなとおもいました。
- いじわるをしてはいけない、みんなにやさしくしないといけないとおもいます。



なかよし学級（１年）　「みんなのすきなものずかん」　個性の伸長



自分の「好きなこと」を選びながら整理することで、自分の特徴を知る。それを他者と共有しながら、自分らしさに気づく。

お話をしながら、自分の好きなことを選んでいきました。紙面に整理して貼りつけたものを最後に発表しました。

- ママといっしょにカードをはれて楽しかった。
- ママの好きなことについてのクイズが楽しかった。

2年生　「大好きなフルーツポンチ」　公正・公平



仲良しの友だちだけにひいきする「ぼく」の行動やそれを指摘した「かおり」の行動を考えることにより、誰にでも公平に接する大切さに気付く。

自分たちの生活場面においても起こりうる出来事であり、みんなの課題でもあります。教材を通して自分たちに置きかえて考えることができました。

児童のふりかえり

・公平じゃないことがげんじつによく起きるから気をつけたいと思いました。
・みんなと同じようにしないとトラブルになるし、自分の心の中も黒くなる。これから気を付けようと思いました。
・みんなとそろえることがだいじだとわかりました。
・みんなと同じように分ける、なかよしであっても同じようにします。
・同じように、わけることがだいじだと思います。
・ぼくも同じようなことがあったから、もし多くしてしまってもごまかさずあやまる。

3・4年生　「ちがいのちがい」　多様性の理解



「あってもよいちがい」と「あってはいけないちがい」について考えることを通して、人権尊重の視点や多様性を認める心を育てる。

保護者の皆さまも「○」「×」カードをもって子どもたちと一緒に考えていただきました。子どもたちの素直な意見に「なるほど…」と大人もうなずけることがありました。事後には、きっとご家庭でもそのつづきをお話していただけたのではないかと思います。

児童のふりかえり

・男子も「かわいい」が好きなのもおかしくないし、逆に女子が「かっこいい」が好きなのも全然悪くないし、おかしくないと思う。「あってもよいちがい」は好き嫌いの好みのことで、「あってはいけないちがい」は男とか女とかで分けることだと思った。



・この勉強で「差別」という意味が分かりました。人の好き嫌いを否定しないようにしようと思いました。「あってもよいちがい」はきまりなどであり、人それぞれのこと。「あってはいけないちがい」は「差別」や「平等でないこと」だと思いました。
・女の人は女の人らしく、男の人は男の人らしくなんて国が決めたわけじゃない。男同士で結婚する人もいるし、男の人が女の人になることもある。宗教のきまりとか好みがあるときは「あってもよいちがい」であり、不平等は「あってはいけないちがい」だとわかりました。
・ちがいには差別が関わっていた。車いすの人が列に並ばずにアトラクションに乗れるのは、「どちらともいえない」。不平等と思うけど、命に関わることかもしれないから。

5年生　「こんなこと　あんなこと」　人権を尊重する意欲の育成



自分の意見があってもまわりに同調してしまう心理や行動に気づき、科学的・合理的に物事を考えることの必要性を感じ取る。

冒頭、参観されている大人で打合せて「同調」を誘うしかけから始まりました。実際に人の意見に流されてしまった場面をもとにすることで、深く考えられました。

- いつもぼくは周りにつられたりしていたけど、自信がある問題は周りにつられないようにすることが大切だと思いました。
- 今日は友達の意見にのっからずに自分の意見を言えたのでこれを続けたいです。
- 話し合った感想は、やはりみんな、周りに合わせてしまう。ぼくも、周りに合わせるときはあるけど、へらしていきたいです。
- 自分も人の意見にのっかってしまって、自分の意見があるのに一人だけ別の意見を言ったらだめだなと思って、その人の意見にのっかってしまうことがあるので、人の意見を聞きつつ、自分の意見を言えるようにがんばりたいです。
- 意見を自信をもって言う力がついた。友だちに合わせずに自分で意見を言っていいっていうのがわかった。
- 周りの人の意見にのらずに自分で自律して学校生活を送りたいと思いました。

6年生　「修学旅行の夜」　自由と責任



自由の大切さを理解し、自他の自由を尊重した責任ある行動がとれるよう、自律的に判断する力を育てる。

今月には修学旅行にいく６年生たち。タイムリーな話題で考えました。授業後に保護者に行った「修学旅行説明会」（児童説明あり）にもつながりました。

児童のふりかえり

- 今まで、自分は人に迷惑をかけて生きてきたけど、これからは周りにいる人の気持ちを考え、思いやり、過ごしていきたいと思いました。
- 自由や自分勝手の区別をつけて楽しい時は楽しい、やるときはやる、とけじめをつけていきたいです。
- １時間目の授業を待つときは自由なので、友だちとしゃべってばかりでした。ですが、それは自分勝手なことだと気付いたので、自由でも次の授業のことを考えて動くことが大事だと思いました。また、誰かに自由時間と言われてもしっかりとその「自由」の意味を考えないといけないと思いました。
- 今日は自由と自分勝手というちがいを考えることができたので、今後は周りの事を考えて行動したいです。ほかにも自由だからと言って何でもすると自分勝手になるので気を付けたいです。

4・5・6年生　「平和学習出前講座」 10/6 平和と人権



兵庫県遺族会の方を講師にお招きし、実感を込めながら話された「戦争にかかわるお話」を通して、平和の尊さについて考える。

お話いただいたのはお２人で、はじめの方は「対馬丸のこと」を詳しく教えてくださいました。次の方はフィリピンで戦死されたお父さんのことやその後の家族のこと（慰霊祭での追悼文にもふれながら）をお話されました。

児童のふりかえり

（紙面の関係で、６年生の感想のみを掲載します。）

- 話を聞いてとても戦争は残酷で犠牲を出すものだと話を聞いて改めて知れたし子どもの頃にお父さんがフィリピンに行ってそれっきり帰ってこないけど今はどんどん子孫が残されていっていて時代の流れを感じられました。そして日本が長い間戦争してないのはいいことだなと思いました。
- 僕は、イランの国が戦争していたことなどの、最近の情報しか知らなかったけど、今回話していただいた、昭和の時代に起こった戦争のお話を聞いて、昔にどんな事が起こったのかを、深く知ることが出来ました。画像などが貼ってあり、そのころの状況がわかりやすく、アニメーションで当時の状況がとてもよくわかりました。僕は、昔にこのような悲劇が起こったことを忘れずに過ごしていきたいです。
- 昔は、対馬丸で沖縄から長崎に児童たちを避難させている最中に魚雷が打たれて対馬丸は沈没したとわかりました。戦争は、とても怖いものだと知りました。
- 対馬丸は沢山の人を乗せて長崎まで行っていたのに、爆弾が船にあたって沈没して沢山の人がなくなってしまったのがとても悲しいなと思いました。そして、アニメーションを見て本当に海に飛び込んで泳いで何かに掴まって、筏に乗っていて子どもを落とそうとして落とされてしまうというひげきがたくさんあったことを知って今の日本は平和だけど昔は大変だったのだなと思いました。
- 対馬丸の船の大きさは、135 メートルもあることがびっくりしました。そんなに大きいのに、船の中は人でいっぱいになったっていうことはそれだけたくさんの人が避難したのだなと思いました。それも小学校や、幼稚園児の子だけだから大人などが入ってきたらもっとパンパンだったのかな？と思いました。
- 戦争というのは、ホンマに残酷で、最低でも日本では絶対に起きてほしくないと思いました。私の願いでは、全国戦争のない世界にしてほしいです。
- 昔の対馬丸の中は、汗臭く、蒸されているようで風通りも悪いから我慢している人が多かったとわかった。対馬丸に何発も爆弾があたり、最悪だったということがわかりました。
- 戦争や原爆（爆弾を落とす）をして人を殺すのは絶対にしてはいけないと思いました。広島の爆弾は濃縮ウラン・火薬・重金属を使って作っていて、長崎の爆弾は濃縮プルトニウム・火薬・重金属を使って作っていた。それを長崎と広島に落とし、人を傷つけるのは、やってはいけないと思いました。
- 戦争があった場所はいろいろあるけど、このへんだと姫路や加古川もあったことが分かりました。加古川が戦争にあった時期は、末期の 1945 年、昭和２０年ごろに戦争がありました。今はどうかわからないけど、船で最終逃げるとき、ミサイルとか船に火をつけられたら昔は、海が安全だったそうなので海に飛び込んで逃げていたそうです。